栗野町ハナショウブ自生南限地帯

【所 在 地】姶良市湧水町堀切 3817

【種 別】国指定天然記念物

【指定年月日】昭和13年12月14日



ノハナショウブは,アヤメやカキツバタと同じアヤメ科の多年生植物で,シベリア東部から中国東北部,朝鮮半島,日本に分布しており,日本では北海道,本州,四国,九州に分布し,栗野町の三ケ月池(三日月池)一帯の湿地帯が,自生の南限地となっている。

ノハナショウブは同属のアヤメやカキツバタとよく似ているが,葉の中央脈が著しく隆起していることや,果実の先端に 嘴 があることなどで区別する。また園芸用のハナショウブはノハナショウブの改良型で,花が大型になり,花色も紫のほか,白色や黄色などがある。

自生地の三ケ月池一帯は以前は湿地帯であったが、昭和 57 (1982) 年に整備されて池らしくなった。しかし雨期を除くとほとんど水はなく、池というより泥湿地である。『三国名勝図会』には三ケ月池について、「栗野村にあり、栗野岳下の野中なり、形状半月に似て、周廻十六町、冬は出水なく、夏五月に水出づ、溪 (ハナショウブの意)多し、その花色濃くして、殊に麗はし、故に霧島御花池ともいふ、霧島四十八池の一なり」と記されている。このように古い時代から今日までこの地に咲きつづけ、親しまれてきたものである。